

東京病院ニュース

第49号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

平成26年11月号に寄せて

国立病院機構東京病院院長 大田 健

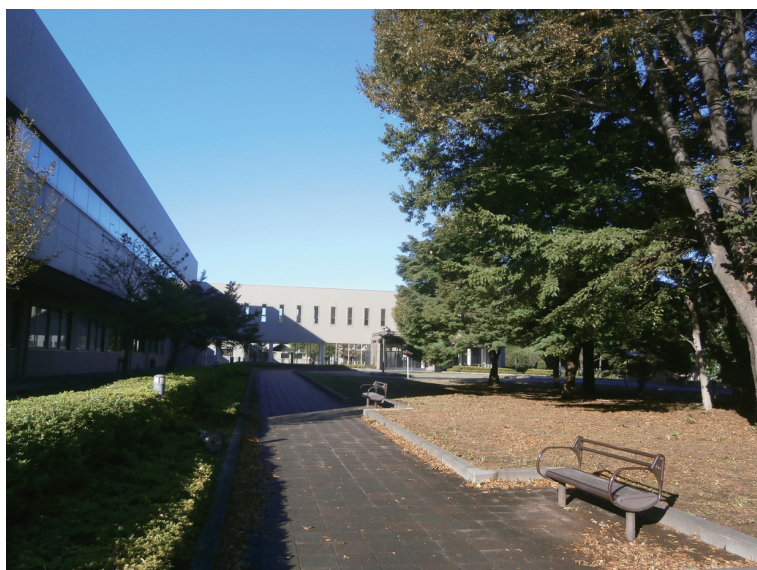
猛暑から集中豪雨、さらに台風の連続通過と本当に不安定な天候の連続でした。さらに御嶽山の噴火まで加わって、まるで自然が何かを警告しているようにも感じます。前号に引き続き、被害を受けて亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。さて、11月は霜月と呼ばれておりますが、今の天候では今月中に東京都内で霜を観察できる日が訪れることは期待できないようです。それどころか、院内で自慢の紅葉は、赤くなる最初の段階にあり、見頃は温度が安定して下がる1～2週間後になりそうです。地球温暖化が叫ばれる中、暖冬を望むのは不謹慎かと思いますが、健康を考えると是非自然にはお手柔らかに願いたいものです。

当院ではこれまでは呼吸器ドックと消化器ドックだけでしたが、10月になって総合的に健康をチェックする総合ドックを開設いたしました。先日私が最初のモニターとして受けてみましたが、良い内容で組みられていると感じました。これからは、ますます予防医学と早期発見・早期治療が重視されていくものと考えております。当院の各診療科の診療体制の充実も止まることなく進めながら、地域医療への貢献度を増し地域の健康度の増進にも貢献出来る体制を整備して参ります。

本紙ではこれまでの連携医の先生からの原稿とともに、前々号から当院の各科のエキスパートによる自己紹介を兼ねた原稿、そして前号から結核についての解説記事が加わりました。東京病院ニュース紙が当院の最新ニュースを伝える情報誌としての役割を一層果たせるように発刊して参ります。是非ご意見がございましたら、お寄せいただきたいと思います。

素晴らしい建物と優れた人材から構成されているめぐまれた環境が十分に活用されて、北多摩北部医療圏はもとより我が国の医療の充実に貢献できることを願って、全員で頑張る所存です。「自分や自分の家族がかかりたい病院」を念頭に、スタッフ全員がそれぞれの職責をしっかりと果たせる職場として、引き続き運営したいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

平成26年11月吉日



連携医の方を紹介します



水谷医院

院長 水谷 良子 先生

標榜科 内科 小児科 往診・在宅医療

院長からの一言：

赤ちゃんからお年寄りまで、老若男女を癒せるような、地域のかかりつけ医を目指しています。病気のこと、体のこと、お気軽にご相談下さい。きちんと納得していただけるように、わかりやすい説明を心がけております。在宅医療の方には、ご本人にとって適切な方法を判断して、支援していきたいと思っております。できるかぎりのことをやらせていただいた上で、私の専門外、または高度医療が必要な場合は、速やかに専門医、またはご希望の病院に紹介させていただきます。



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	×	○	○※	×
15:00~18:00	○	○	○	×	○	×	×

※13時までの診療となります。

《休診日》木曜、日曜、祝日、第3土曜日

所在地：〒189-0013

東京都東村山市栄町 1-13-1

連絡先：TEL 042-390-5522

ホームページ：<http://mizutaniin.com/>



当院 Expert 医の紹介

消化器内科医長 上司 裕史

1984(昭和59)年、私は東京病院に赴任し、B型肝炎ウイルスの母児感染(Ohbayashi family)を報告した大林明先生、輸血後肝炎を研究し後のC型肝炎ウイルス発見の一役を担った片山透先生のもとで、肝臓病を勉強することになりました。開業医の先生方からは、両先生にたくさんの患者さんをご紹介いただきました。お陰様で私も多くの肝臓病患者さんの診療に当たらせていただくことができました。肝臓病診療の重要な手技である肝生検あるいは肝臓の穿刺治療目的で、数えきれない程肝臓に針を刺してきました。また、その経験を生かし当科から45編の英文論文を発表してきました。私もLancet letterにHCVの家族内感染について、HepatologyにHCV感染の予後について発表しました。

赴任当時、患者さんの半数以上は非A非B型肝炎の患者さんでした。その後1989年にC型肝炎ウイルスが発見され、その多くがC型肝炎であることが判明しました。1992年にはインターフェロン治療が導入されC型肝炎に対する治療が始まりましたが、当時の治癒率は20%以下で惨憺たるものでした。しかし、その後次第に治療が改善され、最近経口剤が導入されるようになり、ほぼ全例が治る時代になりました。一方、HCV感染者は高齢化しています。高齢者では、肝硬変がなくても、慢性肝炎、血小板値が正常なうちから発癌することが、決して珍しくありません。さらには、ALTが落ち着いていても、発癌することがあります。HCV感染が治るようになった今、HCV感染者の発癌を防ぐ必要性が高まってきました。開業医の皆様には、ぜひご高齢HCV感染者の拾い上げにご協力いただきますようお願い申し上げます。

私どもは、地域の皆様が気軽に受診できる消化器センターを目指しております。至らぬ点はぜひご指摘いただき、今後ともよろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。

呼吸器センター長 田村 厚久

当院はその前身である東京療養所、国立療養所東京病院を経て今日に至るまで呼吸器疾患の診療に特長をもつ病院です。医療情勢の変遷もあり、現在の当院は診療科の枠を超えて5つのセンターのもと、様々な疾患の診療を行っており、呼吸器内科は呼吸器センターの中核として2個結核病棟と4個一般呼吸器病棟、計300床を担っています。

私が旧国立療養所東京病院に赴任してからもう20年以上たちますが、呼吸器内科医は当時から現在に至るまで、結核病棟と一般呼吸器病棟各々一つを受け持つことになっています。このため私は長年、結核診療と気管支鏡診断～抗がん剤治療～緩和医療も含めた肺癌診療に携わると共に、前者では結核・肺癌の合併や気管支結核について、後者では肺癌に合併する様々な病態について、勉強してきました。

勉強の話は置いて、この20年余りで肺癌治療は大きく変わりました。赴任当時、肺癌患者さんの約7割は切除困難で、そうした患者さんの多くに抗がん剤治療を行っていましたが、薬剤の種類も少なく効果は不十分、しかし副作用は高度で、早晩がん治療が困難になってくれば、一般病棟に入院したまま緩和医療へと進まざるを得ず、患者さんの生活の場もほとんど病院にありました。翻って今日、当呼吸器センターにおける肺癌患者さんの半数は呼吸器内科医による確診後、呼吸器外科医による手術を受け、早期の社会復帰が得られるようになっています。また残念ながら切除困難と判断された患者さんにも、効果と副作用対策の向上したがん薬物療法をいくつかの選択肢の中から相談しながら行うことができ、放射線科による治療の機会も増えています。連携医、訪問看護、介護スタッフの皆様のご尽力により在宅医療体制が充実してきたことも大きな変革で、肺癌患者さんの病状に合わせた形で社会生活とがん診療の両立が得られるようになっています。なお呼吸器センターはリハビリテーション科による呼吸器リハビリはもとより、緩和ケア科とも連動しており、在宅医療のオプションとしての緩和ケア病棟入院時には担当していた呼吸器内科医が再び診療にあたっています。

肺癌の治療成績は向上したとはいえ、他の固形がんに比べまだまだの状況です。今後の新たな肺癌治療に積極的に対応し、院内外の皆様と共に肺癌診療、そしてもちろん、他の様々な呼吸器疾患の診療にも汗を流していきたいと思っております。今後ともよろしくようお願い申し上げます。

結核について (2)

呼吸器内科医長 山根 章

前回は、我が国における結核の状況をお話ししました。

要約すると、

- ① 我が国の結核患者発生数は徐々に減少しています。
- ② しかし、高齢結核患者はなかなか減少していません。高齢者では結核以外の合併症を持っておられる方が多く、治療に難渋することも少なくありません。
- ③ その一方、東京などの都市部では、若年齢層の結核も問題となっています。

私たちは、このような状況の下で結核患者さんの診療を行っています。今回は東京病院での結核治療の現況についてお話をしたいと思います。

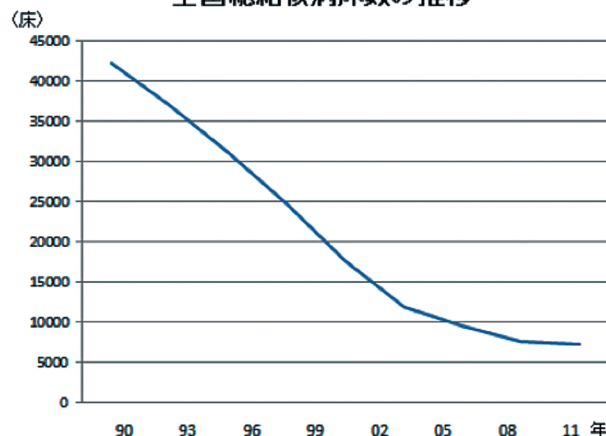
当院の結核病棟は現在100床で全国最大規模の病床数です。入院棟の最上階（7階）に、東西に分かれる形で2つの病棟（各50床）が置かれています。結核病棟は陰圧になっていて、結核菌が外へ漏れていかないような構造になっています。また、結核病棟の換気は菌を取り除くためのフィルターを通して外気へと放出されています。

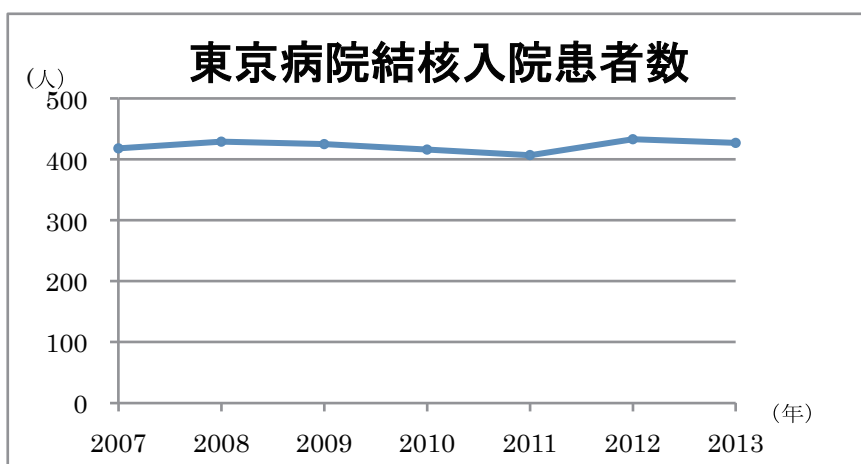
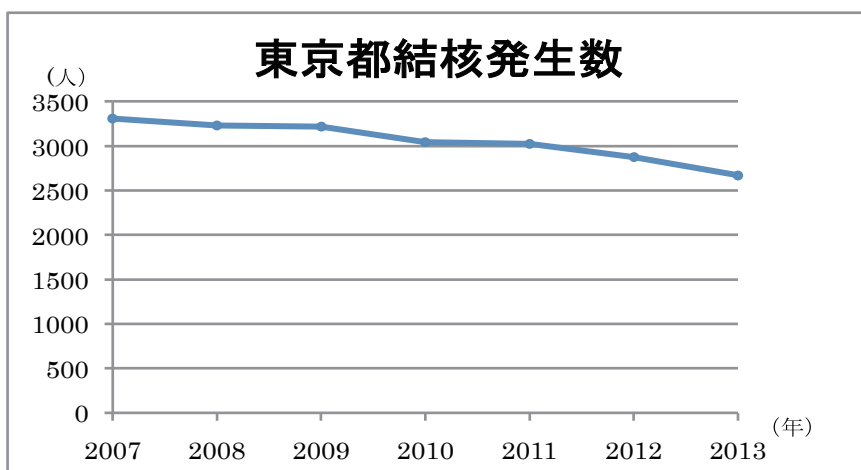
平成25年度（2013.4.1～2014.3.31）の結核病棟入院患者総数は564名で、前年度より67名増加しました。入院患者さんの内訳は、結核患者423名、非結核患者141名で、結核の患者さんも15名増加しましたが、結核以外の患者さんは52名増加していました。こう書くと、結核病棟になぜ結核以外の患者さんが入院しているのかと思われる方もおられるでしょう。当院の結核病棟には、すでに肺結核と診断された患者さんの他に、結核が疑われたために入院が必要と考えられた患者さんも数多く入院しているのです。このような患者さんは、診断が確定するまでは個室に入って頂く必要があります。平成25年度には、結核疑いで入院したが結果的には結核以外の病気だった患者さんが前年より大幅に増加したことになります。結核が疑われる方を受け入れる病院が数少ないことを考えると、このような患者さんの受け入れも当院の大切な仕事であると考えています。

はじめに述べたように日本全体では結核患者は減少しています。このことは東京都でも同じで、やはり東京都内の結核患者は減少してきています。しかし、当院結核病棟に入院された結核患者さんの数はここ数年横ばいではっきりした減少傾向はみられていません（図を参照してください）。このことについては、結核病棟数が減少していることが関係しているかもしれません。図に示したように、結核病床数はここ20年の間に大幅に減少しています。東京都や隣接した県でも同じことがいえます。従って、東京病院など残った結核病床を有する病院に結核患者さんが集まってきているものと思われます。当院にはこの近辺だけでなく東京23区全域、多摩全域、埼玉県、神奈川県、千葉県などからも患者さんが入院されています。

今回はこれでおしまいです。次回は引き続き当院の結核治療の現況に関するお話をいたします。

全国総結核病床数の推移





人間ドックのご案内

総合診療センター（循環器内科） 青木和浩

東京病院では、その特色から肺・消化器に専門化した専門ドックを以前から行ってまいりました。

今回さらに一般人間ドックもご提供させていただきます。

人間ドック受診により、がんや、脳卒中、心臓病、糖尿病などの生活習慣病を早期発見し、その合併症等の重症化を予防することができます。

さらにニーズに合わせてオプション項目もご用意いたしました。

年に1度、人間ドックで詳しい検査をされることをお勧めします。

新任のご挨拶



中尾 啓太

平成26年10月から呼吸器外科医として勤務させていただきます中尾啓太と申します。各分野のエキスパートの先生がたの中で働くことができ、大変光栄に思っております。まだまだ至らない点も多いとは存じておりますが、患者さんや医療スタッフの皆様とよりよい医療を作っていけるよう、精一杯がんばってまいりますので、よろしくご挨拶申し上げます。

「生活習慣病」と言われたら…栄養指導をご活用ください

栄養管理室 主任栄養士 富井 三恵

「生活習慣病」とは、生活習慣が原因で起こる疾患の総称で、食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなどの生活習慣が深く関与し、発症の原因となる疾患の総称です。

以前は「成人病」と呼ばれていましたが、成人であっても生活習慣の改善により予防可能で、成人でなくても発症可能性があることから、1996年に当時の厚生省が「生活習慣病」と改称することを提唱しました。日本人の三大死因であるがん・脳血管疾患・心疾患、更に脳血管疾患や心疾患の危険因子となる動脈硬化症・糖尿病・高血圧症・脂質異常症などはいずれも生活習慣病であるとされています。

(厚生労働省 メタボリック症候群が気になる方のための健康情報サイト e-ヘルスネットより)

強力な生活習慣病撲滅対策として、特定健診・特定保健指導が行われています。

当院では入院患者だけでなく、清瀬市特定健康診査で来られた外来患者（予約制）、地域の病院・診療所に通院中の患者（予約制）へも管理栄養士が栄養指導を行っております。

「わかっているけど、やめられない」方から、「食習慣を改めて見直したい」方まで、ぜひ当院の栄養指導をご活用ください。

質問		はい	いいえ
1	食事を抜くことがある		
2	食事時間が不規則である		
3	ついお腹いっぱい食べすぎる		
4	あまりよく噛まず早食である		
5	体重が増加傾向である		
6	食事は1人分ずつ盛り付けていない		
7	外食の機会が多い		
8	和・洋菓子・ジュース等の甘いものをよく食べる		
9	主食（ご飯・パン・麺類）をしっかり食べる		
10	野菜・海藻・きのこ類のおかずはあまり食べない		
11	魚料理より肉料理が多い		
12	揚げ物や脂っこいものが好き		
13	野菜は生野菜（サラダ）が多い		
14	味付けの濃いものが好き		
15	梅干し、ラッキョウ等の漬物、佃煮、塩辛をよく食べる		
16	料理には必ず醤油やソースをかける		
17	アルコールをたくさん飲む		
18	たばこを吸う		
19	イライラや心配事があると、つい食べてしまう		
20	運動不足である		



「はい」に多く当てはまったら、生活習慣病のリスクが高く、
要注意・・・

治験についてご説明いたします。ご協力をお願いします

治験管理室

【くすりの種類】

くすりの種類には、口から飲むくすり“内服薬”や塗ったり貼ったり吸ったりするくすり“外用薬”、直接からだの中に入れるくすり“注射薬”があります。これらを「医薬品」と呼んでいます。

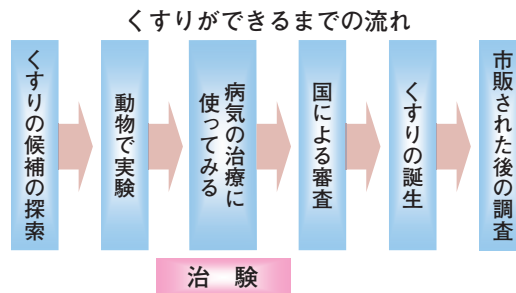
【医薬品】

医薬品とは病気の診断・治療・予防に使用することを目的として使われるもので「薬事法」で定められています。

医薬品として製造・販売し、使用するためには国（厚生労働省）に認めてもらう必要があります。

【治験とは】

国（厚生労働省）に医薬品として認めてもらうためには、人での効き目や副作用について調べる試験を行いその結果を厚生労働省に提出する必要があります。この試験を「治験」といいます。

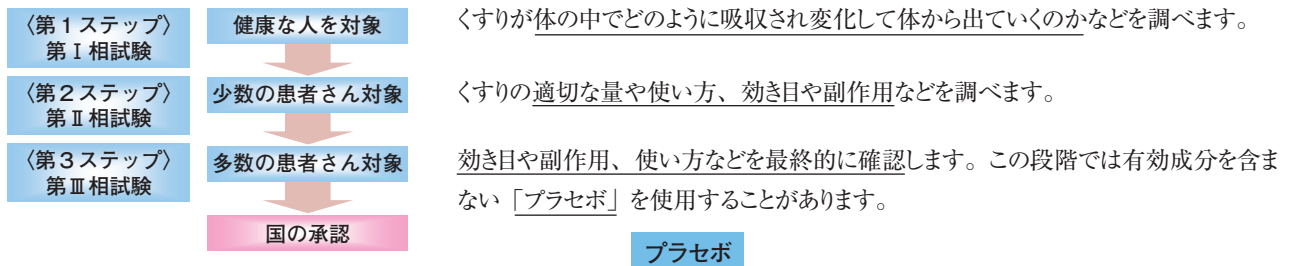


自然界から発見された物質「くすりの候補」を医薬品として認めてもらうために、健康な人や患者さんにご協力をいただいて「くすりの候補」の効果と安全性を確かめる試験を「治験」と呼んでいます。「治験」は「治療試験」を略したもので、治療的側面と試験的側面の両方の要素を含んでいます。

治験は新薬が誕生する上で欠かすことができないものであり、これは参加していただく方のご理解とご協力がないと成り立たない制度です。

【治験のステップ】

治験には3つのステップがあります。



【治験を行うためのルール】

医薬品の臨床試験の実施に関する基準
(GCP: Good Clinical Practice)

「GCP」と呼んでいます。これは、国（厚生労働省）が定めた、治験に参加する方の人権と安全を最優先するための厳しいルールです。

◆ 治験を行う製薬会社や病院は、このルールに従って、治験を適正に行うように義務づけられています。

【当院で現在実施中の治験】

- ☆ アルツハイマー型認知症を対象とした第Ⅱ相試験
- ☆ アルツハイマー型認知症を対象とした第Ⅱ/Ⅲ相試験
- ☆ アルツハイマー型認知症を対象とした第Ⅲ相試験
- ☆ 気管支拡張症を対象とした第Ⅲ相試験
- ☆ COPDを対象とした第Ⅲ相試験
- ☆ コントロール不十分な喘息患者を対象とした第Ⅲ相試験
- ☆ オピオイド使用に伴う便秘症を対象とした第Ⅲ相試験
- ☆ 市中肺炎を対象とした第Ⅱ相試験
- ☆ 感染性腸炎を対象とした第Ⅲ相試験
- ☆ 重症喘息患者を対象とした第Ⅱ相試験
- ☆ 真菌症を対象とした第Ⅲ相試験

治験に関するご質問・ご相談等ご遠慮なく、お問い合わせください。
治験へのご理解とご協力を宜しくお願い致します。

お問い合わせ先 TEL 042-491-2111 治験管理室

診療内容 病床数560床

- | | | | | |
|-------------|---------------|-------------|-----------|-------------|
| ○呼吸器センター | ○喘息・アレルギーセンター | ○消化器センター | ○総合診療センター | ○放射線診療センター |
| ●呼吸器内科 | ●アレルギー科 | ●消化器内科 | ●総合内科 | ●整形外科 |
| ●呼吸器外科 | ●眼科 | ●消化器外科 | ●循環器内科 | ●リハビリテーション科 |
| ●リハビリテーション科 | ●耳鼻咽喉科 | ●リハビリテーション科 | ●神経内科 | ●泌尿器科 |
| ●放射線科 | ●皮膚科(入院のみ) | ●放射線科 | ●麻酔科 | ●放射線科 |
| ●緩和ケア内科 | | ●緩和ケア内科 | ●臨床検査科 | ●歯科(入院のみ) |

平成26年度「清瀬市健康診査」受付中です。

〈実施期間〉平日(月～金)及び第2・4土曜日

〈受信を希望される方は〉

当院は完全予約制となっております。ご希望の方は予約センターまでお問い合わせ下さい。

なお、受診の対象となる方にはあらかじめ清瀬市から「受診券」が郵送されますので、受診券が届いた方から予約をお願いします。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日9:00～15:30】

受付時間：初診 8:30～14:00 (消化器内科の月、金は12:00までの受付) 予約センター 042-491-2181
再診 8:00～11:00 (受付時間平日8:30～15:00まで)

専門外来案内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
禁煙(予約制)	火(午前)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器関係外来		
肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
咯血(予約制)	火(午後2時～)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を咯血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
難治性喘息外来(予約制)	月(午後2時～4時)	通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来	水(午後)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)
高次脳機能外来	木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診)。
肝胆脾	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆脾疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)
白内障外来	木(午後13:30～15:30)	白内障の診断、手術の相談、説明など、これから白内障手術を検討されている方の各種相談などを行っています。

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約：診療依頼書をFAX送信して下さい
CT・MRI検査の申し込み：医療連携室へお電話下さい

医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30～15:30)
TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分～4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分～7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

